

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈小・61〉	いわき市立 勿来第一小学校
＜実施日＞	平成 28年 5月 27日 (金)	
＜実践教科等＞	※当てはまる番号に○を付けてください。4は () に教科等を入れてください。 1 理科 ② 学級活動 3 総合的な学習の時間 4 その他 ()	
＜実践内容＞	1 題材名「ほうしゃせん、なにに気をつければいいの」 2 本時のねらい 放射性物質の存在を知り、放射性物質を体にたくさん取り込まないように、気を付けて生活しようとすることができる。 3 授業の流れ (1) 外から帰ったら、なぜ手洗いやうがいをするのかを考える。 (2) 放射線や放射性物質について知る。 ○ 放射性物質 ・ 放射線 (目に見えないビーム) を出すもの ○ 放射線 ・ 自然の中にあるもの (宇宙、大気、空気、食べ物) ・ 目に見えない ・ やけどをしたり、病気になったりする ・ 人から人にはうつらない ・ ものを通り抜ける (レントゲン) (3) 放射性物質の多い場所を知る。 ・ 草むら ・ 側溝 ・ 木の根元 ・ 水たまり ・ 雨どい (4) 放射性物質を体に取り込まないために、気を付けることについて話し合う。 ・ 手洗い、うがい、顔洗い ・ ほこりや土をはらう ・ お風呂、シャワー ・ 風が強いときには窓を閉める ・ 口に入れない ・ 心配なときには相談する 4 日常生活でこれから気を付けたいことを確かめ、本時のまとめを行う。	
＜成果＞	○ 日頃から行っている手洗い・うがいを心がけることで、放射性物質から身を守ることができることを理解できた。 ○ どんなことに気を付けて生活すればよいかを知ることができ、実践してみようという意欲が高まった。 ○ 放射線は身近な物で、中には生活に役立っている物もあり、必ずしも危険なわけではないことを学ぶことができた。	
＜課題＞	○ 児童は震災当時幼かったため、震災の記憶があまりなく、放射線等に対する意識は低い。不安にならない程度に、きちんとした知識を身に付けさせていく必要がある。 ○ 子どもたちに実感を持たせられるような放射線教育をするために、教師自身がより正確な知識を身に付ける必要がある。 ○ 学年ごとに指導内容を明確にする必要がある。 ○ 低学年の実態に合った教材 (紙芝居、DVD など) があるとよい。	
資料作成担当者職 (教諭) 氏名 (佐々木留美)	学校電話番号 (64-7621)	